

プレスリリース
報道関係者各位

株式会社 ウイングネット

～ 大学入試の潮流に大きな変化が～
推薦型・総合型入試が拡大する中、「いかに個々に合った
学習内容や進捗で学力強化するか」が問われる時代に

— 「偏差値を上げる」から、「合格力を上げる」指導へ —

「スーパーウイングネット体制」の強化

2022年10月より学習プラットフォーム「Monoxer (モノグサ)」を導入

動画配信サービスを提供する株式会社ウイングネット（所在地：東京都文京区、代表取締役社長：荻原俊平）は、映像授業の学習効果を高めるため、記憶定着のための学習プラットフォーム「Monoxer」を10月上旬からウイングネット加盟校に提供することを予定しております。また、23年度に向けては、既存の映像授業と連動するコンテンツやテストシステムを開発し、学力定着の強化、受講生のモチベーションアップを図る仕組みも提供します。

「スーパーウイングネット体制」の映像コンテンツは、良質なインプット教材として好評をいただいておりますが、今回のMonoxerの導入により、従来以上に個別最適化や学習の効率化が促進され、記憶事項の深い定着や得点力の強化が図られます。これにより、インプットからアウトプットまでの一貫した指導体制により、受講生の「合格力」を飛躍的に高め、志望校合格に導きます。

■Monoxer 導入の背景と、「スーパーウイングネット体制」の提供価値の拡大

近年、生徒の受講ニーズの多様化により、授業時間が固定された対面授業よりも受講の自由度が高く、また学習塾側では講師不足を解消する方法として映像授業のニーズが高まっています。

従来の一般的な映像授業は、学力上位の特定層に特化するなど、生徒がつかずいた時に基礎レベルまでさかのぼって視聴できないことが難点とされています。一方、ウイングネットでは2022年3月から本格始動した「スーパーウイングネット体制」によって基礎レベルから最難関レベルまで、生徒のレベルに合わせて受講することが可能です。首都圏から地方にいたるまで、生徒が最高品質の授業を視聴することができ、講師が不足している地方の小規模学習塾でもあらゆる学力層の生徒に活用されています。

そうしたウイングネットの映像授業は、「自分で考える力」のもとになる「基礎の深い理解」を大切にしています。単元毎の確認テスト等、カリキュラム内容の定着も含め、映像授業を活用した「学び方」の提供に力を入れています。

一方で、語彙などの基礎学力部分や既習範囲の定着という点においては、生徒一人一人の家庭学習に依存する要素が大きく、個人差が存在してしまう問題も認識されてきました。定着プロセスにMonoxerを活用することで「基礎の深い定着」も実現可能です。単純記憶事項や既習範囲の定着度の差分を最小化し、映像授業の理解度をより高めるシナジーを実現しながら、より質の高い学びを提供することができます。

また、これまで映像授業と紙の教材では映像授業の視聴状況以外の学習プロセスが見えにくかったため、どれくらいの努力がどのような結果に結びついているかがわからず、効率的な生徒の学習サポートや教材の改善がしにくいといった課題もありました。

Monoxer を活用することで、ウイングネットのオリジナル教材を簡単にデジタル化し、より効果的・効率的な学習ができるようになります。そして学習プロセスが可視化され、生徒指導や教材の改善に活かせる点でも「スーパーウイングネット体制」の提供価値が高まったと言えます。

■Monoxer を活用した、今後のコンテンツの充実

今年度は高校生向けコンテンツの一部と中学生向けコンテンツの提供を開始します。高校生向けでは先行して英単語や古典単語等の語彙に関するコンテンツと、中学生向けには定期テスト対策でのコンテンツが中心となる予定です。

ウイングネットでは自ら計画を立て、授業を受け、その成果を記録し、そして次の計画を立てる、「自ら学ぶ習慣」を大切にしています。「自ら学ぶ習慣」をより強固なものにできるよう、Monoxer の学習計画機能によってテストの日から逆算して個別最適化された学習機会を提供します。ウイングネットは既存のコンテンツの拡張に加え、Monoxer との連動性を高めながら、生徒が自ら学ぶための仕組みを強化し、「志望校合格」に向けた「学び」にとどまらず、社会に出てから必要とされる力を育むために、よい理想の指導環境を構築して参ります。

■『スーパーウイングネット体制』とは（2022年3月より）

従来のウイングネットコンテンツ「ベーシックウイング」
 (教科書対応定期テスト対策・共通テスト対策・基礎力定着)、「アドバンスウイング」(国公立・有名私大対策)、「学研プライムゼミ」(難関国公立・私大対策)の3つのコンテンツに加え、新たに東大・京大・医学部など最難関大学を目指す生徒を対象に、学びを広げる「スーパーウイング※1」を新たに作成。大阪・兵庫を中心に最難関大学の実績を47年にわたり出し続けている『高等進学塾東京医進館※2』の実力講師とともに、最上位生の知的好奇心をくすぐりながら、思考力を強化していくコンテンツとなっております。

《高校生》新学力観・新課程入試完全対応



《中学生》新課程対応・全方位対応



《小学生》進学先・目的別コース

	学年	英語	国語	算数	理科	社会
公立 中進学	小3	●				
	小4	●	●	●		
	小5	●	●	●	●	●
	小6	●	●	●	●	●
一貫校 受験	小5		●	●	●	●
	小6		●	●	●	●
中学 受験	小4		●	●		
	小5		●	●	●	●
	小6		●	●	●	●

コンテンツの充実と併せ、新たな学びを提案する新システムも始動。応用コース(アドバンスウイング)で受講している生徒が「基礎を勉強し直したい」と思った時、新たに講座登録をせずに基礎学習(ベーシックウイング)の復習画面を呼び出し、学び直すことを可能に。つまり、大学入試レベルの演習問題にアドバンスウイングで取り組みつつ(アウトプット)、必要に応じて基礎確認をベーシックウイング(インプット)のできるようになります。

その他、新課程入試に対応すべく、小学校英語教科化への対応、中学指導要領改訂への対応、「公共」「歴史総合」といった高校新指導要領への対応も万全。生徒の皆様の様々な進学ニーズに対応し、将来の夢や希望がかなえられるよう、取り組んでおります。

※1：東大・京大・医学部受験特化の最難関講座「スーパーウイング」

「思考力」「判断力」「表現力」が重視される新課程入試、特に東大・京大・医学部をはじめとする最難関受験ではこれらをどのように身につけるかをポイントに作成しております。「新学力」に対応すべく単なる知識に留めないためにも

① 推論を加えて結論を導く…与えられた題材から知識を用いてどのように結論に至るのか

② 批判的思考(CriticalThinking)…自己による、または他者視点から評価する

といった“学習の仕方”＝知識の体系化についても重視しております。また、知識を使えるだけでなく、いかに知識を組み合わせて問題解決するために必要な『適切なアウトプット』の実践もいたします。

スーパーウイングにおいては「知識の体系」・「問題解決のために知識を組み合わせて試行錯誤による問題解決能力」の両方を構築することを目的に、「正しいインプット」と「適切なアウトプット」を映像授業において実現することを目的としました。それゆえに「内容理解」と「問題演習(入試問題レベル)」を同時に進める力が身につく、より高次の学習として「問題演習」をしながら「内容理解」をすることが可能になります。

※2：“現役で東大・京大・医学部へ” 高等進学塾東京医進館とは

1975年に大阪天王寺の地に、現役高校生を対象とした大学受験専門塾として「高等進学塾」を開設。2012年に東大・京大・医学部受験を専門とする「東京医進館」に進化させ、2022年春には、4校舎で東大35名(理Ⅲ5名)、京大47名(医学科11名)、国公立医学科94名という合格実績を輩出。47年に及ぶ経験に裏打ちされた、東大・京大・医学部受験に特化したカリキュラム、それに基づく高度な授業システムを作り上げ、講師の「やる気」と生徒の「やる気」と確かなシステムをもって学力を伸ばします。

■株式会社ウイングネットのご紹介

2009年より、映像授業「ウイングネット」「ベーシックウイング」などを中心とした塾事業のトータルサポート事業を開始。全国の塾・教育機関や自社での導入など、現在3,000教室を超え、全都道府県のほか、海外にも配信されています。運営面では、学習・受験情報や生徒管理のノウハウの提供、東京大学の学生などがオンラインで行う「双方向質問室」など提携校へのサポート体制も充実しています。受講する生徒の学力や目標に応じて、教科書対応の「ベーシックウイング」、中堅・上位大学向けの「ウイングネット」、難関大学向けの「アドバンスウイング」、今年度より開始した超難関向けの「スーパーウイング」と、新課程にも対応しながらコンテンツの充実を加速させています。

【株式会社ウイングネット】

本社：〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-14

創業：1965年(昭和40年)5月

代表者：代表取締役社長 荻原 俊平

URL：<http://www.ichishinwingnet.co.jp>

■「モノグサ株式会社」について

モノグサ株式会社は、記憶定着のための学習プラットフォーム「Monoxer」の開発・提供をしております。

Monoxerは、先生が憶えて欲しい内容を登録するだけで、その内容を定着させるために必要な問題が自動で作成されます。児童・生徒は作成された問題をスマホやタブレットのアプリで学習していきますが、一人ひとりの習熟度・忘却度に応じて、リアルタイムで問題の出題頻度や難易度が調整されるため、一人ひとりのレベルにあった学習が実現できます。

遠隔でも児童・生徒の学習状況・定着度が分かるため、通学・通塾が困難な状況でも、きめ細やかな指導を行うことが可能です。

【モノグサ株式会社】

本社：〒102-0072 千代田区飯田橋 3-8-5 住友不動産飯田橋駅前ビル 7 階

設立：2016年8月10日

代表者：代表取締役 CEO 竹内孝太郎、代表取締役 CTO 畔柳圭佑

事業内容：記憶のプラットフォーム「Monoxer」の開発と運営

URL：<https://corp.monoxer.com/>

【本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社市進ホールディングス 広報部：齊藤・田中

TEL:03-5840-9837 FAX:03-3816-9371

Email:hd_kouhou@ichishin.co.jp